

(第三種郵便物認可)

住民から魅力聴き取り

江戸川大ゼミ学生 中沢区で調査開始

駒ヶ根

駒ヶ根市中沢区の魅力を調査し、地域振興につなげようと現地入りしている江戸川大学(千葉県)社会学部・鈴木輝隆教授のゼミ学生らが11日から2日間のフィールドワークを開始した。指導者を含め23人が7グループに分かれ、中沢についてよく知る高齢者や画家、農産加工品づくりに取り組む住民などに話を聴きながら区内を巡っている。(前田智威)

13日に中間報告会

営農組合の食品加工グループで、みそを作っている菅沼夏子さんに取材した4年の駄賃場桃子さん。人気のみそ以外にもいろいろな料理を見せてもらい、「もうけることも、やろうと思えばできるな」と感じたという。「新しく仕事をつくることもできるのではないのでしょうか。ここは景色もいいし、仕事があれば人も来るようになるのでは」。中沢公民館で地元で詳しい野村佐雄さんと区長の春日源

之さんにヒアリングしていた2グループは、それぞれ中沢から見える中央アルプスの美しさ、花の里づくりに取り組む住民の話などを聴いているうちに「実際に見て回りたい」と戸外に飛び出した。学生からのインタビュを終えた春日さんは「毎日見ている自分たちは中アの景色に感慨はないけれど、学生さんはきれいだと感激していた。若い人の目は貴重ですね。地域活性化のヒントがもらえそ



みその加工所で菅沼さんに話を聴く学生ら

う」と期待していた。学生たちの食事作りは、自治組合が当番制で担当し郷土

料理などを振る舞っている。地元食材の差し入れも住民から次々に届いている。11日前6時からの朝食作りは、学生たちも自主的に手伝い、住民との交流を深めている。2日間の調査結果をまとめた学生たちは、中間報告会を最終日の13日午前10時30分から同公民館で開く。

きょうの紙面



駒ヶ根市中沢区で江戸川大学のゼミが魅力を聴き取り。

14 大学生の中沢区調査始まる

- 2 小学生が議会傍聴
- 7 日本武尊の足跡紹介
- 5 月に願掛け健康祈る
- 10 保健センター移転へ
- 6 「環境とエコ」考える
- 15 松村さん意見発表へ
- 4 文化、県内株式
- 12 総選挙結果に思う
- 18 衛星ラジオ